

難聴の子どもは、聴力と読話力（話し手の口元、表情を見て言葉を読み取る力）を合わせて話を聞き取っています。しかし、常に100%聞こえ、理解できる訳ではなく、授業に参加するには、周囲の適切なサポートが欠かせません。

これは、指導に当たっての基本的な配慮事項です。是非チェックしてみましょう。

学年（ ） 名前（ ） Aできている Bあと少し C要改善

基本的な配慮事項		チェック
1	【難聴児の座席】 前から2～3列目、窓際から2～3列目の座席に座っている。 （教室全体が見渡せ、先生の口元も逆光にならない）	
2	【授業者の話し方】 窓側に立たないで話している。 正面から、表情や口元が見えるようにして話している。 （逆光だと、表情、口、唇、舌などがよく見えず読話しにくい）	
3	適切な声量ではっきり、ゆっくり（文節で区切るなど）話している。 （「お・は・よ・う」と区切ったり、早口で話したりすると分かりにくい）	
4	【視覚的な情報の提示】 キーワードや主発問、指示、子どもの発言などを、板書したり文字カードで示したりしている。 （曖昧さがなくなり、自信を持って学習活動に取り組める）	
5	読み始め、歌い始めは、教科書のページ等を開いて指差している。 （曖昧さがなくなり、自信を持って学習活動に取り組める）	
6	写真や図、イラスト等の教材を工夫している。 （理解の助けになり、イメージを広げることができる）	
7	【子どもの話し方・聞き方】 最前列の子どもは後ろを向くなど、聞き手を向いて話している。 話者の方を向いて聞いている。 （みんなにとって伝え合える話し方・聞き方である）	
8	【友達の発言の確かめ】 FMマイクやロジャーのマイクを発言者に向けている。 （補聴器や人工内耳は2mまでが有効であり、座席により友達の発言を聞き取れないことがある）	
9	教師が復唱したり、「何でしたか？」と全体に投げかけたりしている。 （曖昧さを補い、理解の助けになる）	
10	【担任間及びコーディネーター、保護者との連携】 情報保障の仕方を、難聴児や授業者と確認している。 個別の時間に、難聴児の学習内容の理解度を確かめ、おさえている。 難聴児に困り感がないか、日々、本人や担任と短時間でも話し合っている。 学校での様子や予・復習してほしいこと等を、保護者に伝えている。	

年 月 日

チェックした人（ ）